

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成29年(2017年)

4-5月号

(通巻 169号)

2017年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

オオイヌノフグリ
人間の寸法ではなく、個々の生き物の寸法で見ると、小さな花も違った表情を見せてくれます。猫目の花ですね。

P 1 ☀️ いきもの写真館
オオイヌノフグリ

P 2 ☀️ 長田谷津を解剖する
湧水の状況
3

P 4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ジョウビタキ

P 5 ☀️ 街かど自然探訪
日之出・市川水路のカキ礁

☀️ くすのきのあるバス通りから
小学校の思い出 その二

P 6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
いもむしの蛹化・羽化

P 7 ☀️ わたしの観察ノート
1月～3月頃の記録

P 8 ☀️ 行事案内

長田谷津を解剖する

－湧水の状況－

長田谷津（大町公園の自然観察園）は、1973（昭和48）年に「大町自然公園」として一般向けに開園されて今年で44年目を迎えます。その間、人の手を加えることは少なめにして、自然の様子を大きく改変することのないように努めてきました。しかし、自然は人が手を加えなくても、文字通り「自然に」その姿を変えていきます。その結果、開園当初に価値を見いだした「谷津田の自然」は大きく姿を変えてしまいました。

今年度より、長田谷津の再整備を始めます。大町自然公園の開園当初の風景に戻すことを目標にやや大規模に人手を加えます。この再整備作業を念頭に、長田谷津の現状について6回にわたって報告していきます。

谷津全体に湧水点

長田谷津の湧水は、「搾り水」と呼ばれます。見た目に水がコンコンと湧くわけではなく、少量がじわっと出てきます。

今回、湧水の現状を知るために、谷津の斜面すそ（斜面の一番下、谷底と接する場所）に沿って、谷をひとまわりしました。落ち葉がつもったり、流れを好むクレソンが繁茂して見えにくい場所もありましたが、ひと回りした結果、谷全体で湧水が出ている場所（湧水点）を確認することがで

きました（図1）。

湧水の3つのタイプ

実際に歩いてみると、湧水の現状には3つのタイプがあることがわかりました。図1のA、B、Cで見られる形です。Aは、公園開園当初に近い湧水の姿です。元々、長田谷津の水は斜面すそで小さな流れを作り、斜面に沿って流れた後、途中で谷方向へ向きを変えて流れます（図2、写真1）。その状態がAの場所ではよく見られます。

B、Cは40年以上経って斜面すその水路

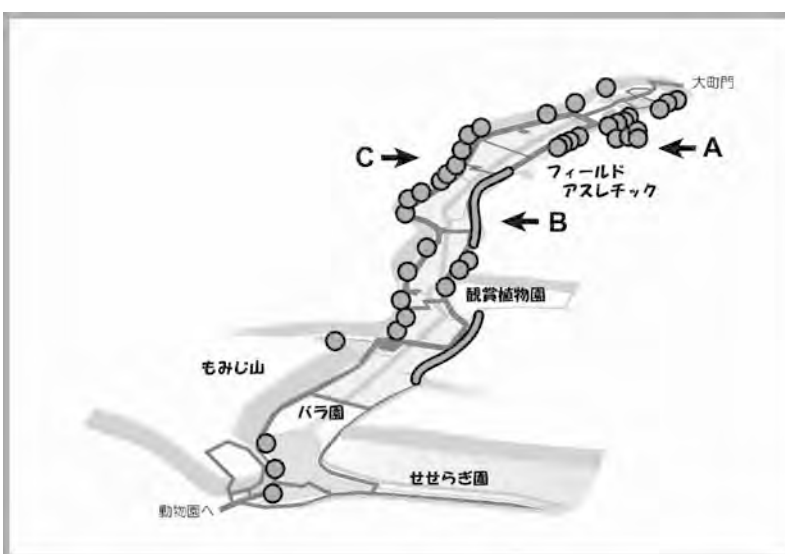


図1 長田谷津の湧水点

○は確認できた湧水点の位置。細長く示した範囲(Bとその南側)は斜面すそ全体がじわっと濡れた状態。

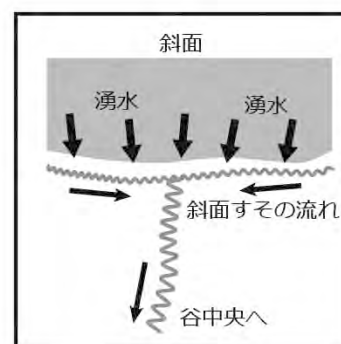


図2 湧水の動きの基本

写真1 谷中央への流路

が埋まった場所です。湧水はすぐに落ち葉や泥にしみこんでしまい、流れを作りません。水を含んだスポンジのような状態で、しみこんだまま谷方向へ水が移動します。全体が何となく濡れているものの、はっきりとした流れが見えない状態です。「昔より湧き水が減った」という印象を受けるのは、こういう場所です。正確には、湧水が土にしみこみ、水が見えないのです。

湧水の再整備

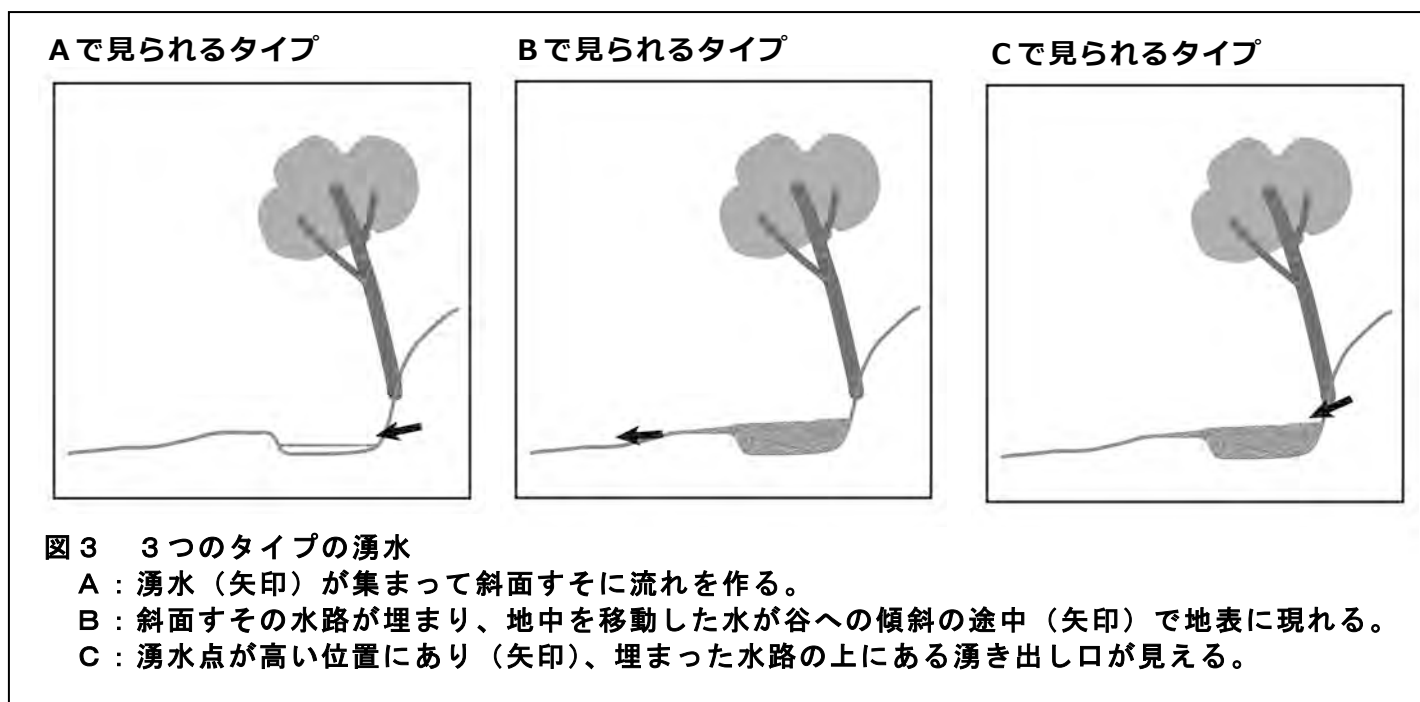
湧水のタイプを図3に示しました。Aのタイプは水が地表に現れて流れます。そのため多くの生き物が水に触れることができます。生き物が利用可能な水の状態です。実際、オニヤンマが産卵し、野鳥が水浴びするのはAのタイプの湧水です。

B、Cのタイプは水が土にしみこんだまま移動するので、水が見えにくい状態にあります。ですが、谷の中央へ向かう傾斜の途中では、なんとなく小さな流れができています(図3 Bタイプの矢印)。そこには、水深1 cmにも満たない小さな水辺もできます。流れがほとんどなく、カメや魚やザ

リガニなどの捕食者が侵入できない水辺です。上に落ち葉が積もってもそのままになります。巻貝のカワニナは、タイプAに多そうですが、実際はタイプB、Cの積もった落ち葉によくいます。サワガニも、タイプB、Cの落ち葉の中を捜すと見つかります。オオアオイトトンボのヤゴが多いのは、タイプB、Cにできる浅い水辺です。

生物が暮らす環境としては、どのタイプも重要です。ですが長田谷津の再整備では、埋まった斜面すそを掘ってAタイプを増やす予定です。それが開園のころを代表する湧水の姿だからです。

もちろん、長田谷津の水路は街なかの側溝ではありません。積もった落ち葉を意図的に残し、タイプB、Cの環境を確保することも重要です。落ち葉は、水の流れる速度を和らげ、積み重なることで空間を細分化する重要な存在です。餌にもなります。じつは、積もった落ち葉を残すそのさじ加減こそが、再整備にとどまらず「自然観察園」の管理全体のキモの部分と言えるでしょう。





ジョウビタキ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅(船橋市)の手入れの悪い小さな庭では、四季を通じて、さまざまな生き物との小さな出会いがあります。

それは、タネや苗から育った植物であり、雑草であり、住宅地でちゃっかり暮らす野生生物でもあります。

このコーナーでは、そんな出会いを紹介していきます。

ジョウビタキは、

秋に日本に渡ってきてひと冬を過ごします。

クリクリしたまん丸い目と、翼の白い斑紋が特徴です。

隣家との境の古ぼけたブロック塀に止まって、庭の様子をうかがっていました。

植木鉢にすみついていたハナムグリの幼虫を投げておいたら

パクッと食べたことも、ありました。



街かど自然探訪

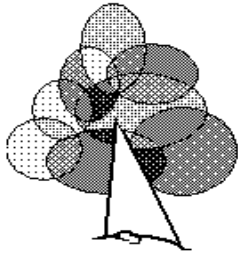
おじゃまします!

ひのいで・市川水路のカキ礁

日之出の住宅地の南側、市川水路を見ようと階段から防波堤の上に出て、びっくりしました。カキ礁が、防波堤から数メートルも張り出すようにありました。よく見ると、びっしり、カキばかりの塊りでした。カキは最初にどこかについた殻を足掛かりにして、どんどん増えてゆくそうですが、いつ頃からこんなに増えたのでしょうか。水面に浮かんでいたオオバンが、カキ礁をつついていました。人には見えなくても、何か餌になるものが住みついているのでしょうか。



△カキ礁の広がる市川水路。
訪れた時は、ちょうど干潮でした。
カキ同士が、殻の上に積み重なるようについていて、盛り上がっています。



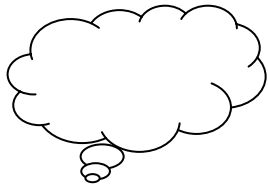
くすのきのあるバス通りから No.111

小学校の思い出 その二

菅野駅から日の出小学校へ向かい、校庭が見える角から校庭は徐々に2m位低くなっていました。中学、高校の敷地はもう少し高い位置でした。市川砂州の端だそうです。大雨が降ると正門から水が流れ込み、脇にある池があふれ、校庭が大きな池になってしまいました。「雷魚が逃げ出して、ゴム長の上から噛みつく」といわれ、雷魚を知らないし池に居るのかも疑わず「帰れない…」と不安になっていました。マ

ラソンの授業で裏門からでて、真間川の方へ走ったようでした。田んぼや屋根のある肥溜め、川の護岸は土で田舎の風景でした。1, 2年生の時は木造の旧校舎で、冬はダルマストーブが入り、日直当番は用務員さんのところに石炭やお茶のやかんを取りに行きました。校舎の北側では日本パイプの「カランカラン」という金属の音が聞こえていました。

(M. M.)



展示室

No.13

飼育生物の話題



いもむしは人によって好き嫌いがあり、飼育展示で扱うには若干の躊躇（ちゅうちょ）があります。ただ、卵→幼虫→蛹→成虫と成長過程での変化が激しいため、生き物の成長を学ぶにはいい素材です。総じて草食であることから、家庭でのチャレンジにも向いています。当館では嫌いな人のことは目をつぶり、積極的に展示しています。これまで表立ったクレームがないのは、子どもたちの歓声が、「まあしょうがない」と大人に思わせているからかもしれません。

夏はいもむしが次々に蛹になります（上写真）。幼虫の蛹化は、ぜひナマで見てほしい場面です。その後成虫は逃がしますが、冬は、そうもいきません。今年2月に羽化したアゲハは、20倍に薄めたニホンミツバチのハチミツで、ひと月以上も生きてくれました（右写真）。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・湿地の調査と整備のためにハンノキ林に入りました(2/1)。歩いていくと足元で突然大きな物音がして、何かが走っていきました。目に映ったのはノウサギのお尻です。ノウサギは斜面林を駆け上がって、途中で休息し、そのまま台地上へ走り去っていきました。
- ・ニホンアカガエルの卵塊がたくさん(この時点で189個)ありました(2/21)。前日は雨でしたが、それよりも前に産んだみたいで泥をかぶっていました。今年は雨と産卵がはっきりとは結びつきませんでした。アカガエルのための整備をしたエコアップ池には80を超す卵塊がありました。
- ・長田谷津の再整備を始めました。斜面林の大きな木を切っていたら、驚いたのかオオタカが飛び立ちました(2/28)。いま居るオオタカは大きくて、カラスと比べても大きいことが一目でわかりました。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆真間山より

- ・南側斜面林でウグイスの鳴き声をききました(3/3)。最初はぎこちなかったのに、徐々に上手になってきました。美しい声がひびいています

◆里見公園より

- ・河津桜が2月11日に2分咲きくらいだったのに10日後にはほぼ満開になっていました(2/21)。その後、寒波もあり長く楽しめることを期待しています。

以上 M. T. さん

◆原木より

- ・マンションの庭にタヌキが1匹ひなたぼっこをしていました(1/31)。

F. M. さん

◆東国分より

- ・多目的広場の枯れた芝生の斜面に、緑や赤っぽい色のいろいろなロゼットがぽつぽつありました(1/31)。ヨモギの新芽の白っぽい緑もありました。香りはまだあまりしませんでした。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆中山より

- ・今年はアトリが多いと聞いていたのですが、小学校の中で見るとは思いませんでした(1/17)。実がなっているハゼの木にはいろいろな鳥が来て、アトリやウグイスの姿も見ました。実際に実をついばんでいたかどうかは確認できませんでした。

◆江戸川より

- ・大きなムクノキの上から鳥の声が聞こえてきました(1/26)。よく聞こえたのはシメでしたが、姿を追うとエナガが見立ちました。
- ・水面ではオオバンが多く見られました(1/26)。川の真ん中付近で1羽だけぽつんと浮かんでいたのは、カンムリカイツブリでした。双眼鏡で見ると、頭のカンムリが立派に見えました。

以上 金子謙一

強い寒波がありましたが、暖かい日もありました。まとまった雨も雪も降らなくて、地面がカラカラになりました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
5月14日㊤	4月15日より
6月11日㊤	5月20日より

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申し込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「O月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 5月6日㊤、6月3日㊤、7月1日㊤、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
春の田んぼ	5月21日㊤午前10時～11時30分	動物園券売所前 午前10時
賑やかな干潟	7月8日(土)午前10時～11時30分	お問い合わせください 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日時 4月23日㊤、5月28日㊤、6月25日㊤、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 5月7日㊤、6月4日㊤、7月2日㊤、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第29巻 第1号 (通巻第169号)

平成29年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>